

EFP【頭頸部】療法

注射薬

投与順序	外観	お薬の名前	お薬のはたらき
1		硫酸Mg + 生食注	ｼﾝﾌﾟﾗﾝ注投与前の補液です。 約4時間かけて点滴します。
2		ﾎﾟﾗﾐﾝ注	副作用を予防する薬です。
3		ﾃﾞｷｽﾄ注射液	副作用を予防します。
4		ｱｰﾋﾞﾀｯｸ注射液	治療のためのお薬です。 1、8、15日目に約1時間かけて 点滴します。 (初回のみ2時間かけて点滴)
5		ｱﾝｷ静注	吐き気を予防します。
6		ｼﾝﾌﾟﾗﾝ点滴静注	治療のためのお薬です。 1日目に約2時間かけて点滴しま す。
7		ﾏﾝﾆﾄｰﾙS注射液	排尿を促す為の補液です。 1日目に約1時間かけて点滴しま す。
8		生食注	ｼﾝﾌﾟﾗﾝ注による腎障害を予防す るための補液です。1日目はﾏﾝﾆ ﾄｰﾙ注投与後に1回点滴しま す。2日目～4日目は1日2回点滴し ます。(約2時間かけて点滴しま す)

注射薬

投与順序	外観	お薬の名前	お薬のはたらき
9		カルボキシ注	治療のためのお薬です。 24時間かけて点滴します。 1日目から4日間継続して投与します。

内服薬

投与順序	外観	お薬の名前	お薬のはたらき
1		イブプロフェン125mg	副作用予防のお薬です。 1日目の点滴開始1時間前に服用します。
2		イブプロフェン80mg	副作用予防のお薬です。 2日目以降の朝食後に服用します。
3		デキサメタゾン錠 0.5mg	副作用を予防する薬です。 2日目から3日間服用します。
4		ミサイクリン塩酸塩錠	抗生剤です。ニキビ様の発疹を予防します。

外用薬

投与順序	外観	お薬の名前	お薬のはたらき
1		ヒルドイドソフト軟膏0.3%	皮膚の保湿剤です毎日継続して塗布して下さい。
2		ロイソ軟膏	顔 : 皮疹が出たら塗って下さい。
3		ジフルプレトナート軟膏	体 : 皮疹が出たら塗って下さい。

投与スケジュール

薬品名	日数																											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
アビタックス注射液	↓							↓							↓													
シプロラチン点滴静注	↓																											
フルオウラシル注	→	→	→	→																								

アビタックス注：1、8、15日目に投与します
シプロラチン注：1日目に投与します。
フルオウラシル注：1日目～4日間持続点滴します
1コース 3週間の治療です。

EFP療法【頭頸部】

よく起こる副作用

★悪心・嘔吐および食欲不振

発生時期 薬剤投与日～5日目位まで
※まれに、以前の化学療法後の嘔吐の体験が影響し、点滴の数日前からおこるものがあります。

症状 食欲が落ちたり、味覚の変化、においに敏感になったり、胃が重たく感じたりします。ときどき吐くこともあります。

対処法 ○治療の前に吐き気止めの注射を行います。症状によっては吐き気止めの内服薬を服用することもあります。
○脱水をおこさないように水分はこまめにとるように心がけましょう。
○吐き気があるときは無理して食べる必要はありません。口当たりのよいものを少量ずつとりましょう。
○吐き気が強く食事できないときは、栄養や水分を点滴で補給することもあります。
○事前に吐き気止めの薬を点滴あるいは服用します。症状がでた後に、吐き気止めの薬を追加することもできます。

★骨髄障害

発生時期 薬剤投与日から7～14日後に減少します。

症状 骨髄には造血細胞と呼ばれる白血球（細菌などから体を守る）、血小板（出血を止める）、赤血球（酸素を運ぶ）の元になる細胞があり、この造血細胞にお薬が作用して造血細胞に障害を及ぼすことを骨髄抑制（障害）といいます。骨髄抑制が起こると、白血球、血小板、赤血球の数が減少し、その働きも弱くなり、感染症や出血、貧血などの症状があらわれやすくなります。

<代表的な症状>

- 感染症：37.5℃以上の発熱・寒気・ふるえ・のどの痛み など
- 貧血：疲れやすい、めまい、立ちくらみ、動悸、顔色が青白い など
- 出血：紫斑（原因不明のあざ）、歯茎からの出血、鼻血、月経量の増加、血が止まりにくい など

対処法 ○感染対策で最もポイントとなるのは、患者様自身の感染予防のセルフケアと感染の早期発見です。感染症をおこさないように、人ごみを避け、こまめにうがい、手洗いを行いましょう。白血球は一時的に下がっても、その後回復します。
○貧血では症状の自覚のないまま、転んだりして事故を起こす危険もあります。日常生活では十分な休養をとりましょう。また、いきなり動かず、動き始めはゆっくりとするように注意して下さい。
○血が止まりにくくなることがありますので、かみそりや爪きりのような鋭いものを使用する際には注意して下さい。打ち身や切り傷を作るような行為や激しい運動は控えるようにしましょう。歯ブラシも柔らかいものを使いましょう。
○症状に応じて、薬剤の投与や、輸血をする場合があります。

★皮膚症状（皮膚の乾燥・炎症など）

発生時期 ア・ピタックス投与から3週間以内。

症状 ○にきびのような発疹ができることがあります。
○皮膚が乾燥することがあります。
○皮膚にひび割れができることがあります。

対処法 ○ア・ピタックス治療を行っている間は、皮膚症状を予防するために、保湿効果の高いクリームなどを使って皮膚の乾燥を防ぎましょう。
○直射日光をさけたり、日焼け止めを使ったりして、紫外線による刺激を防ぎましょう。
○体を洗う際には、刺激の少ない石鹸を使いましょう。
○皮膚症状の程度が軽ければ、症状が悪化しないように治療を行ったり、場合によってはア・ピタックスの量を減らしたり、一時的に治療をお休みすることで治療を継続することができます。そのため、上記のような症状を少しでも感じたら、担当医師や看護師、薬剤師などの医療スタッフに相談してください。

★皮膚症状（皮膚の乾燥・炎症など）

頻度は少ないが注意を要する副作用

★過敏反応（インフュージョンリアクション）

発生時期 薬剤投与中～投与開始後24時間以内

症状 発熱、疼痛、ほてり、頭痛、頻脈・心悸亢進（心拍数が著明に亢進すること）、血管浮腫（舌・喉のはれとして認められることがあります）、咳・呼吸困難、そう痒（かゆみ）、吐き気、虚脱感、悪寒（震え）、発疹などがあらわれることがあります。

対処法 ○インフュージョンリアクションのおそれがある場合は薬剤の投与前に予防薬を投与します。
○点滴中、点滴後（特に24時間以内）においても気になる症状が現れた場合には、すぐに医師や看護師・薬剤師に知らせてください。

★下痢

発生時期 薬剤投与日から数日～数週間後に起こります。

症状 水のような便が夜間をとわず頻回に出ます。ときどきおなかがしぶるように痛くなります。

対処法 ○感染症を防ぐ為、排便後は肛門の周りを清潔に保ちましょう。
○周期的な腹痛、1日5回以上（もしくは通常よりも3回以上多い排便）の排便、夜中の下痢便が起こった場合はお知らせ下さい。
○症状によっては下痢止めが使われることがあります。
○下痢がひどくなり、液状・粘液状の便が続く時、あるいは血便や強い腹痛があるときはお知らせください。
○食事は温かく消化吸収のよいものをとりましょう。
○下痢によって水分が失われるので、スポーツドリンクなどで水分をたくさんとりましょう。
○辛い食べ物、冷たい食べ物、炭酸飲料やコーヒーも避けましょう。

★間質性肺炎

発生時期 薬剤投与後数日～数週間

症状 ○発熱、から咳、呼吸困難（息苦しい）、頭痛、倦怠感などの風邪のような症状があらわれることがあります。

対処法 ○起きる頻度はまれですが、症状の軽いうち（風邪のような症状）から治療する必要があります。

★腎障害（シブヲチ）

発生時期 薬剤投与開始時～

症状 尿量が少ない、むくみが出る、体がだるい、赤みがかった尿がでる等の症状がでることがあります。

対処法 ○治療薬を投与中に腎障害を防ぐ為に、利尿剤により尿の量を増やすとともに、点滴で水分を補給します。
○こまめに水分を取るようにし、トイレを我慢しないようにしましょう。
○尿意を感じたらがまんをしないで排尿をします。寝る前にも排尿をし、その際に水分も摂ってください。

★心毒性（心筋障害、心不全）

発生時期 薬剤投与日から1～数ヵ月後以内
※まれにそれ以降にも起こる場合があります。

症状 手や足首のむくみ、息切れ、動悸、胸の痛みなどの症状があらわれることがあります。

対処法 ○上記の症状が出た時はすぐに医師に連絡し、指示に従ってください。

その他の副作用

★脱毛（軽度）

- 発生時期** ○治療開始日から3週間目頃から始まりますが、治療が終われば必ず生えてきます。
- 症状** ○全て抜けてしまうのではなく、髪が薄くなることが多いです。
- 対処法** ○治療中は頭皮も敏感になっていますので、シャンプーやブラッシングの回数を減らしたり、長時間のドライヤーは避けてください。

★シプロリンその他の副作用

- 症状** 発疹、アナフィラキシー様症状、動悸、頻脈、めまい、むくみ、しゃっくり、血圧低下、手足の痺れ、聴覚障害、視覚障害など
- 対処法** 症状があわれた場合には医師に知らせてください。

★その他

- 症状** 下痢、口内炎、倦怠感、味覚異常、角膜炎など
- 対処法** 症状に応じて対症療法を行います。

副作用は薬剤ががん細胞を攻撃するときの一部の正常の細胞にも影響を与えてしまうことにより起こるものです。

もちろん正常な細胞は治療が終わればもとに戻りますし、副作用も少しずつ回復します。

副作用の出かたや、程度は個人によってさまざまであり、副作用の全てが現れるとは限りません。

大事なことは予想される副作用を十分理解し、その対処をすばやく行うことです。そして副作用があらわれた場合はもちろん、それ以外でも気になることがありましたらどんなことでも、主治医や看護師、薬剤師に相談して下さい。

医療法人敬愛会 中頭病院（薬剤部）

